



国際青年環境NGO セージ

sage@japan.com    www.interq.or.jp/green/sageweb/

事務所: 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町角 1928ビル 1階  
TEL/FAX: 075-761-4829 (内藤)

セージは、いろいろな関心を持つ若者が集まり、世界規模の諸問題の打開策を探りながら、広く社会一般に  
情報提供・啓発活動を行うとともに、実際に問題解決の一つの力となるために様々なアプローチで活動する団体です。



セージは、その活動の一環として、99年のシアトル閣僚会議前以来、WTOなどの国際機関に着目した活動を行ってきました。その過程で国際会議にもたびたび出席し、国内、国外を問わず、さまざまなつながりを培ってきました。

今年の11月に、カタールのドーハでWTO（世界貿易機関）の閣僚会議が開催されます。今回の会議は、新ラウンド交渉の立ち上げのための重要な会議として位置づけられています。

この会議にあわせて、私たちは

- (1) 閣僚会議にメンバーを派遣する ..... p.4
- (2) WTOシンポジウムを開催する ..... p.6
- (3) WTO・NGO閣僚会議をホスティングする ..... p.8

ことを予定しています。

これを通してさらなる経験を積み、また新しいつながりを築くよい機会としようと考えます。



現代をみわたすと、高度な科学技術、とくに最近では情報関連技術の進歩により、地球上の人・モノ・情報・カネの行き交いがかつてなく活発になってきている。このような状況の中で、「ボーダーレス社会」や「グローバリゼーション」などの言葉で表現される、国という枠を越えての、地球の一体化・相互依存化が進んでいるであろうことを感じ取れる機会が増えてきている。

中でも、貿易は相互依存に立脚し、また一体化を牽引する原動力として極めて大きな力を占めている。世界中のほとんどの国の経済が、マクロ的に見れば貿易なしでは成立し得ないと言えるであろう。

この「貿易」を取り仕切る国際機関がすなわち、WTO（世界貿易機関）である。そのルール作りの前提となっているのが、「経済成長は常に善である」こと、そして「経済成長のために最も有効な手段こそが自由貿易である」とする主張である。WTOは、鉱工業製品や林・水・農産物はもちろん、今や、モノのみならずサービスや知的所有権の取引を規定することまでをもその権限の下に治め、かつ投資や政府調達など、貿易の範囲に収まりきらない活動に関してもルール作りを推進しようとしている。

しかし、と言うべきか、それがゆえに、と言うべきか、WTOに対しては、批判が数多く挙げられている。環境の保護との兼ね合い、南北格差との兼ね合い、あるいは消費者の権利、さらには人権や民主主義などなど、様々な視点から批判がなされている。特に、この経済的な利益優先の政策に対しては多くの市民団体・NGOから批判の声が挙がっている。

翻って身の周りを見ると、世界第2位の国内総生産、世界一の貿易黒字、世界最大のODA供与額を誇る国が我々の住む日本であり、経済的な面ではもちろんのこと、政治的・文化的なものまで、その世界に与える影響が、日本の中から見ただけでは、なかなか想像の及びもつかないほど大きなものになってきていると思われる。

世界の中で特に経済的な面で大きな影響力を発揮する日本が、国際機関、殊にWTOの交渉においても、他の一部の先進諸国と並んで極めて大きい影響力を与えとしても、不思議ではない。逆に、その日本の経済活動の大きな部分を貿易が占めているために、WTOにおける決定が日本に与える影響もまた大きいことは容易に想像がつくであろう。

「グローバリゼーション」が世界の経済の大きな流れとして進展する過程で、WTOの果たす役割は限りなく大きい。このWTOが、日本も含め、世界に与える影響を知ることはこれからの世界の行方を考える上で、非常に重要であり有用だと思われる。

今年の11月に、カタールはドーハで、WTOの第4回閣僚会議が開催される。WTOにあっては、ここで新しいラウンド交渉をスタートさせることを目指している。私たちセージでは、前回のシアトル閣僚会議以前よりこの課題に取り組み、国内はもとより、海外にも幅広いネットワークを培ってきた。これも大いに活かしながら、この機会に合わせて、WTOについて、様々な声、様々な主張のあることを発信し、そしてより多くの人を知ってもらい、考えるきっかけを作れば、と考えている。

Project  
Dohja

3

企画書

国際青年環境NGO セー  
sage@japan.or.jp  
www.interq.or.jp/green/sage

WTOの最高の意思決定機関として、2年に一度開催されている閣僚会議が、今年の11月に、カタールのドーハで行われる。ここでは、前回のシアトル閣僚会議で頓挫した新ラウンドを立ち上げるべく、様々な交渉が行われるであろうことが言われている。この新ラウンドで交渉の俎上には、既に交渉が決まっている農業やサービスの他、特に先進国が推している知的所有権や投資などの分野までもが載る可能性がある。この閣僚会議における決定がのちの経済のあり方、そして私たちの生活に与える影響は大きいであろうことは想像できる。

このような重要な意思決定の場で何が話し合われているのか。閣僚会議という交渉の最先端の場はどうなっているのか。そして交渉はどのような過程で進むのか。また交渉担当官を含めそこに集まっている人たちは何を考え何を思っているのか。

さらに、この閣僚会議の場には世界中から多数のNGOも集まってくる。そして様々なNGOが様々な内容・趣向でセミナーやワークショップなどのイベントを開く。また、交渉過程に影響を与えるべく、政府と積極的に関わっていくNGOも多数集まる。この点こそ、セージがたびたび国際会議に出席する中で培ってきた国際的なネットワークを活かせる機会であり、このようなNGOから流れてくる情報も貴重である。ここで学べるもの、感じられるものはないか。そして集まってきた多くのNGOの人々もまた何を思って閣僚会議に集まってきたのか。

しかし、これらのことも、はるか遠い日本ではなかなか伝わってこない。決定の内容が陰に陽に様々な日本に影響を与えるにも関わらず、その決定の過程や結果がなかなか伝わってこない。それらに対する世界的な批判の動きがあることなど、なおさら伝わりにくい。ましてや、今回はドーハという、あまり訪ねやすくはない土地での会議の開催であるがために、その伝わってこない現状に一層拍車がかかることが考えられる。

閣僚会議の場は、国を問わず、政府や企業、NGOなど立場を問わず、様々な人の主張や意見を直に聞ける絶好の機会であるとともに、それらが「貿易の自由化」という世界的な流れにどう影響を与えているのかを間近に見れる、数少ない機会である。

そして、見たものを流すこと。日本のメディアを通して伝えることを試みることはもちろん、最近の飛躍的に進歩した情報通信技術を利用し、ドーハからの情報を瞬時に日本で処理し、自らの力で広める。逆に日本やアメリカなど本国での報道や受け止められ方をドーハの現地にフィードバックし、これも現地における活動の一助とする。

この企画では、閣僚会議の現地、ドーハにメンバーを派遣し、現地で政府や他のNGOと情報のやりとりをしてお互いの見識を深め合うことに寄与するとともに、その現地の情報を日本の他のNGOや広く一般の人向けに送り、日本で発信し、遠いドーハの地で起こっているが実際私たちに影響を与えるであろう様々な決定に関して、少しでも多くの人に知ってもらうことを目的とする。併せて、のちのちの活動にも活かすために、現地で様々な人と交流することも目的とする。



日時・場所

閣僚会議開催場所：ドーハ（カタール）

日程：11月9日～13日

活動

1. 情報集積・共有・発信

- ・ドーハにおいて、閣僚会議内外の情報の収集を行う
  - a) 公式な発表や政府のブリーフィングへ参加
  - b) 様々な（特に外国の）NGOからの提供
  - c) 様々なNGOのイベントへの参加
  - d) メディアを通じた情報の収集
- ・日本・アメリカにおいて、閣僚会議に関する情報の収集を行う
  - a) メディアを通じた情報
  - b) NGOからの情報

ことに始まり、

- ・ドーハと日本でお互いの情報を交換し、共有

したのちに、

- ・ドーハの閣僚会議の場内外で情報のシェアリングをする
  - a) 政府との情報共有
  - b) 様々な（特に外国の）NGOとの情報共有
  - c) メディアへの情報発信
- ・日本において、閣僚会議に関する情報を発信する
  - a) 他の日本のNGOへの情報発信
  - b) メディアへの情報発信

2. 交流

- ドーハの現地に集まる、様々な国、様々な立場の人との交流
- ・政府関係者との交流（ブリーフィングなどへの出席）
  - ・他のNGOとの交流（イベント参加など）
  - ・メディア関係者との交流



閣僚会議がドーハで行われ、WTOの場で交渉が進展し、重要な決定がなされていく中でしかし、それらの交渉内容や決定の存在自体を知らない人が多いのではないだろうか。さらにはそれらに対する根強い批判が存在することを知らない人がむしろ大半であり、批判があること、それが特に海外では身に迫った問題として議論の対象になっていることなどを知るのはごく少数であろう。実際、WTOなどという国際機関は、社会的にまったく遠いところにあり、雲のように掴み所がないかもしれない。さらに今回の閣僚会議は、ドーハという、地理的にも隔たった土地で開催されている。

グローバル化が進むものが進展し、モノやカネ、情報のやりとりがますます緊密になる中で、貿易のあり方、世界的な規模での経済のあり方が、生活のあらゆるところに影響を与えようようになってきた。このような背景のもと、WTOやそれに対して挙げられている問題点に関してより多くの人に知ってもらうことは有益であると考え

る。しかし、WTOが扱う領域はあまりにも多岐にわたる上に、その内容もあまりにも専門的であり、非常に複雑である。できる限り多くの分野・領域を網羅しようと思えば、短時間かつ小規模なイベント・内容ではとてもカバーできるものではない、というのがまぎれもない事実である。

今回は、そもそもWTOという機関が存在し、そしてそれに対して挙げられている批判があることをより多くの人に知ってもらうことを入り口とする。そして、WTOに関連して、様々な分野で活動されている方々を全国から講師としてお招きして、幅広い内容を網羅し、様々な課題のあることを示したい。さらに一歩踏み込み、分野を越えたディスカッションを通して、取り組んでいる個別の問題が異なっているも、WTO、あるいは経済成長のみの追求など、根元的に共通する部分があることを認識することを目指したい。

同時に、さまざまな課題に取り組んでおられる方を知ってもらうことで、そのような活動があることを広く知ってもらい、個人個人、ひいては社会全体の意識づけのきっかけとしたい。

併せて、ドーハの閣僚会議の報告会も織り交ぜ、ドーハで何があったか、どのようなことが話されていたのか、どのような主張が飛び交っていたか、などを報告し、今現在進行中の交渉内容についての理解を深めてもらう。

最後には、専門的に、現在のWTOの交渉をフォローアップしている方々をお招きして、現在のWTO交渉の最先端では何が話されているか、そしてそこにどのような批判がなされているのかについて議論することで、具体的な政策・協定・交渉の部分で何が問題とされているのか明らかにしたいと考える。

これらを通して、分野的にも、数多くの分野を網羅し、かつその間をつなげることを目指している。総合的な視点に近づくとともに、分野を越えた課題への取り組みにつながる糸口としたい。また、内容的にも、初歩・入門的なものから、交渉の最先端の専門的な内容のものまで、幅広い層に訴えられるような内容とする。

a project of



## 日時・場所

日程：11月末（予定）

場所：京都大学（予定）

## プログラム

## 1. セミナー：WTO入門

- ・WTOとは何か
  - ・WTOの歴史的経緯
  - ・WTOの抱える課題：批判的な視点から
- 講師：NGOの方 1名

## 2. セミナー：各分野における課題

- ・農業 — 講師：農家の方 2、3名、近畿農政局より1名 他
- ・漁業 — 講師：全漁連より1、2名、漁師の方 他
- ・林業 — 講師：NGOの方、ほか
- ・南北関係 — 講師：開発NGOの方複数名、他
- ・消費者 — 講師：日消連の方、反GMOキャンペーンの方 他  
ほか

## 3. 報告会：ドーハ閣僚会議より

- ・ドーハ閣僚会議までの流れ
  - ・閣僚会議の内容
  - ・以後のWTOの展開、交渉の以降の展開
- プレゼンテーション：セージの派遣メンバー
- 
- コメンテーター：NGOの方 1、2名

## 4. パネルディスカッション：WTOの問題点の共有

- ・農業、林業、消費者保護など、分野を越えて  
パネリスト3、4人でのディスカッション
  - セッション1：環境の保護と貿易の自由化
  - セッション2：消費者の立場から、貿易の自由化
  - セッション3：南北問題と貿易の自由化
- ほか

## 5. パネルディスカッション：WTOをそれぞれの立場より

- ・政府の立場の方、企業の立場の方、NGOの立場の方の三者  
（または生産者も含めて4者）でそれぞれの立場を踏まえながら、パネルディスカッション

## 6. パネルディスカッション：交渉の最先端で

- ・政府の立場の方、NGOの立場の方、大学の教授の方の三者で  
交渉の最先端で何が議論されているのか、についてのディス  
カッション



- 1) 企画目的
- 2) 企画内容



その名の通り世界の貿易を取り仕切るWTOは、扱う品目の数だけ影響力を持っているとも言えるわけだが、前身のGATT時代には鉱工業製品のみを扱っていたものが、今や農産物や教育・医療や上水道供給を含むサービス業、さらには知的所有権や投資措置、ひいては検疫や衛生基準、工業基準まで管轄する、巨大な国際機関となっている。そしてこれらを決める基準が、経済的な利益の追求のみにおかれていて、環境であったり消費者の保護であったり発展途上国への配慮を失うものなのではないか、という批判が様々な方面から上がっている。WTOは、管轄する権限が大きくなった分、それ以上に膨れ上がった批判の矢面に立たされていると言えるだろう。

経済のグローバル化を批判する機運は、その影響が多くの人の周りで明確に顕れはじめて来るにつれ、高まってきている。特に世界的には、99年のWTOシアトル閣僚会議におけるNGOの5万人の抗議活動以降、WTOなどの国際機関やWTOが推進する貿易自由化に対する連帯的な活動の意義や実効性が認識され始めてきている。

日本においても、様々な団体が様々なトピック、様々な立場からWTOに関連した活動を行ってきた。そしてこのような流れの中で始まったのが、日本のWTO・NGO戦略会議である。ここでは、日本全国から、WTOに関連した様々なアプローチで多様なトピックに関して取り組んでいる市民団体/NGOの方々が集まって、知識や経験を共有し、そしてWTOに対する活動で協力するために議論してきた。

第1回を2000年1月に行って以来、年2回のペースで行ってきていて、次回で4回を迎える。

第4回WTO・NGO戦略会議を私たち学生団体であるセージでホスティングする予定である。これを通して、企画側のセージのメンバーはもちろんのこと、広く募ったセージ内外の参加者の学生にとって、学生という枠にとどまらず、より幅の広い活動に参加するきっかけづくりとしたい。また、環境問題など、次世代に関わる議論も出てくるこの会議の場に、私たちの声を届けることも意義があると考えている。厳しい時間的かつ地理的な制約の中で活動されている社会人の方々の補う形で私たちが企画に参加できると考えている。ドーハに赴いて得てきたものを会議に直接反映させることもそのひとつである。また、全国から集まった方々に個人的にも話せるよい機会づくりをすることで、活動の動機づけのよい機会にもしたい。

これを通して、日本のNGOの議論の活性化、活動の活発化に寄与するとともに、私たちにとって視野を広げ、あるいは活動のきっかけをいただくよい機会としたい。

## 日時・場所

日程：11月末(予定)  
場所：京都市内(予定)

## プログラム

1泊2日の合宿を予定  
詳細は企画中